

峻嶺

学校便り NO 1

大町市立第一中学校

「峻嶺に輝く一中生たれ」

本年度も「一中生心得 峻嶺に輝く一中生たれ」という目標の下、「輝きの姿」として次の三つを挙げました。



学習については年々向上してきているものの、課題としては家庭学習の時間が国・県と比べて少ないこと、生徒によっては授業中集中して授業に取り組めないことが挙げられます。本年度も、まず「目と耳と心で話を聴く生徒」を目標の第一歩としました。

清掃は先生も先輩も率先垂範で「もくもくと汗して掃除をする」姿を示し、床と自らの心を磨いていきたいと思えます。昨年度は各学期に縦割り清掃で学年を超えて清掃への取り組みに力を入れたり、意識付けを図ったりしてきました。今の校舎ができ、開校50周年を迎えたとき「100年後も光り輝く校舎を創り上げたい」という願いが建てられました。本年度も全校で磨き上げていきたいと思えます。

また「いつでもどこでもだれにも」挨拶できる生徒を目指すことで、積極的な生徒を育てたいと思えます。進んでコミュニケーションがとれる生徒であれば、まさに生きる力を持った人に育つことでしょう。詳しくはPTA総会の折にお話しさせていただく予定です。

セクハラ相談窓口について

性被害やセクハラで悲しい思いをしたり不安になったりした生徒がいた場合は、相談窓口を保健室の丸山直子先生にお願いしてあります。職員や外部の人間が関係する場合は校長・教頭が対応することもあります。原則秘密厳守で対応します。保護者の皆様からの相談にも応じております。

生徒、職員の減少に伴って

その他の課題については、生徒の減少によって、学級数が減り、先生方も減っていくことです。その中で、県や市から特別にお願いしている先生もいて、授業以外の仕事ができなかったり、勤務時間や勤務日数に制限があったりします。

そういう中で、生徒会の委員会に先生が一人しかつくことができない委員会が増えました。また、地区生徒会は一人の先生が2地区を掛け持ちで担当するところがあります。

最も影響が大きいのは部活動で、副顧問を置くことができない部があり、場合によっては文化部の顧問に引率をお願いすることも出てくると思われます。

一方で、新人戦にチームが組めない運動部も出てきました。女子の運動部離れが顕著で、女子バレーボール部、女子バスケットボール部、女子ソフトテニス部等では部員不足が深刻な状態です。卓球部は女子部員0がしばらく続いています。部員不足で秋の新人大会と次の夏の中体連大会を単独チームで組めない場合は廃部とするという方針です。

また、文化部においても、大会やコンクールへの出場、出品、応募等対外的な活動がなかったり、日常活動が組めなかったりする部については活動計画の見直しを図って行く予定です。

学力向上への取り組み

昨年度、最後の参観日に校長がお話ししたとおり、本校の学力向上に向けた取り組みが、数字となって成果が現れて参りました。特に3年生が行っている「全国学力学習状況調査」においては全国平均と同等かやや上のレベルになり、県平均を超える教科も出てきました。また、2年生が行っているPDCA調査では、春秋2回の検査で、特に数学において大きな改善が見られました。これは昨年度から少人数学習を2年生まで拡大し、数学の1クラスを半分の人数にしたり、英語の1クラスを2人の先生が同時に入って行うT.T授業をしたりする事で達成されたと考えられます。

本年度も少人数学習を2年生まで拡大して行い、学力向上を目指したいと思います。また、生徒同士のコミュニケーションを大事にした学習活動や家庭学習についても、力を入れていきたいと考えております。

一方授業に集中できず、私語を交わしたり学習以外のことをやっていたり、学習を放棄して寝ていたりする生徒の姿もあり、取り組みの差が成績の差になって表れています。さらに先生の指示が守られず、危険（本人自身はもちろん周りの生徒にも）がある場合（刃物・尖物・機械・薬品等を扱う内容や運動）は学級として実験や作業、運動を行わない、または別の対応（教師の師範実験や映像視聴・別の教材や種目への変更等）をとることがあります。ご理解いただきたいと思ひます。